

パブリックコメントの対応案について

資料 2

1. パブリックコメント実施期間：令和6年12月13日（金）～令和7年1月14日（火）

2. パブリックコメント実施結果：

①提出者数・意見数：提出者数2名（意見11件）

②計画に反映した意見数：1件

意見 番号	項目	小項目	意見内容	市の考え方
1	戦略B 観光まちづくり戦略	B-2 守るべき資源・文化の と価値の再認識	○街並みや自然景観の保全について ・景観形成基準→新体育館は違反している ・景観形成地域 木綿街道について、重伝建導入を検討するとのことだが、過去、重伝建指定に動いた際には市として何をしたのか。	・新体育館については、地元や出雲市景観審議会等からご意見をいただきながら、景観に配慮し建設しています。今後も街並みや自然環境の保全に努めていきます。【文化スポーツ課】【建築住宅課】 ・木綿街道については、これまで歴史的な町並みを形成する建造物の調査と文化財登録を推進してきたところです。今後は専門家の意見を踏まえて、重伝建の導入等を検討します。【文化財課】
2			○歴史文化資源の保存と活用について 文化財の調査や保存を推進し、観光資源としての活用を積極的に推進とあるが、市指定文化財であった大津町の本山田家住宅は解体してしまった。	文化財に関しては、所有者のご理解・ご協力を得ながら、今後も文化観光資源として、活用を積極的に推進していきます。 【文化財課】
3		B-4 観光客への情報発信 ルート等の活用	○観光客への情報発信ルート等の活用 御土産代の消費額単価が1,313円と低いが、単価を上げられる付加価値のある商品開発が必要ではないか。	数値目標（P36）において、日帰り客、宿泊客ともに令和11年度までに消費額単価を1,000円増加させ、観光消費額を上げていくことを目指すこととしています。 その実現を図る上で、お土産・特産品などの付加価値の向上やPR強化にも取り組むこととしており、トキを生かした農産物のブランド化推進や、「おいしい出雲」認定制度の更なる活用、民藝品等のPR強化などに取り組んでいます。
4			○オフシーズン対策等に資する民間イベント等の支援について、出雲の日実行委員会は、1月26日を「出雲の日」とし、令和2年よりイベントを開催しているとのことですが、それを知っている市民がいません。集客力あるイベントですか、効果（費用対効果）をどう分析されていますか。	「出雲の日」は、令和2年から出雲の日実行委員会が実施している民間主導のイベントです。コロナ禍を経て、今年度からは取組の範囲を大社地域以外にも拡げ、各地域の商工団体等が協力して実施する全市的なイベントになりつつあります。 事業効果としては、このイベントのみで図ることはできませんが、近年は冬季の宿泊客数も伸び、年間の繁閑差が縮小しており、今後も冬季の取組において重要なイベントであると考えています。

意見 番号	項目	小項目	意見内容	市の考え方
5	戦略D 観光地経営体制・人づくり戦略	D-2 地域との協働体制の構築	○地域と協働体制の検討イメージ（例）について 市が市観光協会に事業委託し、それを地域事務局に再委託して地域戦略会議を運営する（案）となっています。しかし、現状の観光協会事務局の人員は少数である。人員体制が充実できるか、コーディネートできる人材の確保が可能か、予算が確保できるか等の根本的課題があります。構想倒れになる可能性が大だと思われます。	地域との協働体制のイメージでは、すべてを観光協会が担うのではなく、地域が積極的にに関わり、市や観光協会が伴走するプロジェクト推進の形を考えています。 また、観光協会自体も、地域づくり支援の機能を強化することとし、組織強化を図る計画としています。
6	その他	その他	次の点がかけていると思う。 1. 観光基本計画（案）の原案作成者（団体） 2. 策定委員会で検討されたのであれば、その委員名 3. 計画（案）作成までの経過 (1)策定委員会があれば、開催年月日 (2)市役所内での検討・協議の開催年月日とメンバー	原案作成者（団体）は、出雲市観光戦略会議です。委員名、計画案策定までの会議の開催年月日は、資料編に掲載します。 市役所内での検討は、観光戦略会議に先立ち、庁内推進本部会議を開いて内容を確認したほか、随時観光交流部や関係課による協議を重ねてきました。会議の開催年月日は、資料編に記載します。 資料1 出雲市観光基本計画 策定経緯（P84） 資料2 出雲市観光戦略会議 委員名簿（P85）

意見 番号	項目	小項目	意見内容	市の考え方
7	III 目指す将来像と戦略	2 将来像の実現に向けた戦略	「地域との協働体制」と「インバウンドに特化した商品造成」についてぜひこの機会にご検討いただき、「将来像の実現に向けた戦略」への具体的な計画案の導入を希望します。 現在進行中の事業計画・コンテンツ（開発中も含め）はいずれも素晴らしく、インバウンドの観光客も満足していただける内容です。一方で出雲の日常を地域の輪の中に入って体験するコンテンツがあれば“出雲ファン”がさらに増えるのではないかと感じています。特に海外からの観光客は「出雲＝神の国・神聖・縁結び」のイメージがまだ確立されておらず、神話の世界がいかに現代の暮らしや地形とつながっているのかを丁寧に紐づける体験プランがあると「はじまりの地出雲」をより深く理解し出雲だけのユニークさを実感していただけると信じています。 今後の旅行の流れ（P30.31）を考慮しますと「神々の国、未来に八雲立つ」のコンセプトにインバウンドFITコンテンツと地域住民の参画が非常に重要です。サステナブルツーリズム（住民本位であること、次に自然や文化の保護が重視され、最後に経済が付随する）の観点からも戦略A（マーケティング）・C（誘致）と同時にB（住民協働のまちづくり）D（地域との協働体制の構築）にも早急に取り組んでいただきたく思います。 この取り組みによりその日のうちに近隣の松江市・大田市・雲南市などに移動していた個人旅行者の出雲滞在日数が増加し経済効果が期待できるでしょう。案としては「町歩き」「縁側での煎茶体験」「コミセン等での活動参加」や「町内の行事への参加」などが考えられます。市内にある40を超えるコミュニティーセンターでは様々な活動があり、ほとんどの町内に地域の歴史に詳しい方がおられ、由緒ある神社やお寺も存在します。また民家には神棚も仏壇もあり、町内の寄り合いのための南向きの座敷と庭を備えたお宅も多く残っています。地元の日常生活を体験することで出雲大社、万九千神社、伝承館、民芸館ほかの施設、景観、今あるコンテンツが心に残り「本物の日本の姿」「はじまりの地・出雲の物語」としてインバウンド客へ強くアピールできる「住んでよし訪れてよしの観光地域」になると考えています。 以上を踏まえいくつか質問をさせていただきます。 地域の事業者や住民が参画して提供可能な体験コンテンツの造成（p.48）はDMO(p.76)の企画開発のどこの機能で対応されますか？	ご意見を参考に、7～11において、いただいた4つの質問と意見に回答します。 「商品造成支援」の機能で、商工団体と連携した事業者支援を行うとともに、地域づくり支援として、市と連携して地域内連携の促進を図りつつ、体験提供を担う人材育成、地域の事業者や住民が参画した体験コンテンツの造成、既存コンテンツの磨き上げを進めます。

意見 番号	項目	小項目	意見内容	市の考え方
8	戦略C 誘客・ファン拡大戦略	C-3. 新市場の創出 (インバウンド、多面的な誘客促進)	インバウンド（FIT）に特化したコンテンツ造成は計画されていますか？	インバウンドの個人旅行者（FIT）に対しては、多言語ガイドの充実を引き続き進めたいと、出雲の歴史文化や暮らしを感じていただける体験コンテンツを四季折々に提供できるよう、コンテンツの充実を図っていきます。
9	戦略D 観光地経営体制・人づくり戦略	D-1 DMOを中心とした観光地経営体制の構築	将来像の実現に向けた戦略一覧表（p.75）にある戦略Dに基づく地域の役割分担の地域をさらに細かく（地域事業者・地域団体・地域住民）に具体化するとどのようなようになりますか？	個々のプレイヤー（地域事業者や地域住民など観光に関わる様々な人々）が事業等を推進することに加え、地域内での連携を図り、地域団体も協力する中で、着地情報の充実や、地域住民の協力を得た体験コンテンツの充実など、地域全体での取組を検討する体制・仕組みの構築を目指します。
10	戦略D 観光地経営体制・人づくり戦略	D-2 地域との協働体制の構築	地域団体・地域住民への協働体制の働きかけプロセスは、講座開催の後にどのような方法で住民の理解や協力の拡充につながりますか？	住民の理解や協力の拡充には、広くインナープロモーション（地域内にに向けた広報・啓発活動）を強化することが重要と考えています。併せて、地域戦略会議のネットワークやプロジェクトなどを通じ、観光まちづくりへの参画の輪を広げていく考えです。これらを通じて、「市民がもっと出雲のことを知り、楽しんでいる」、「観光まちづくりによる地域の発展を多くの市民・事業者が期待し、様々な形で取り組む人やビジネスの輪が広がっている」といった目指す姿につなげていきます。
11	(全体に対する意見)		出雲のすばらしさは、歴史や文化、本物の豊かさを現在に継承している市民の日常により支えられています。住民の視点が今後のコンテンツ造成や組織改編に反映される具体案の早期構築を期待しております。	ご意見のとおり、出雲のすばらしさを継承していくことは重要であり、基本理念において、「私たちは、観光産業を持続可能なまちづくりの原動力とし、神々の国出雲の文化とともに、豊かな出雲の地を次世代に引き継ぎます」と定めています。 具体案の早期構築については、令和7年度にアクションプランを策定し、着実に取組を進めてまいります。